



サンショウ

ちょっと谷戸沢

冬を乗り越える樹木の芽^め

寒い冬は動物にとって厳しい季節になりますが、それは植物にとっても同じです。

秋に葉を落とす落葉樹^{らくようじゆ}も、1年中葉をつけている常緑樹^{じょうりよくじゆ}も、冬の間は次の春に花や葉を芽吹^{めぶ}かせる準備として、芽をつけています。これを冬芽(とうが、ふゆめ)と呼びます。

今回は、この冬芽についてご紹介します。

冬芽はいつできる？

冬になると目につく冬芽ですが、気温が低く、光合成などの活動が低下する冬にはつくことはできません。冬芽は活動が盛^{さか}んな夏ごろにつくられます。春に向けた準備は、夏から始まっています。

大切な花や葉を守る！冬芽の姿

冬芽の形は大きく分けて、鱗^{うろこ}のようなものに包まれている「鱗芽^{りんが}」と包まれていない「裸芽^{らが}」の2種類があります。さらに、寒さや乾燥^{かんそう}から守るため、芽に細かい毛が生えていたり、粘液^{ねんえき}で覆われているものもあり、植物によって異なります。

また、落葉樹の冬芽の近くには「葉痕^{ようこん}」(葉がついていた痕)があり、その形も様々です。

クマノミズキ



対生

ネジキ



互生

冬芽の付き方も異なる



葉痕

トチノキ

表面の粘液で乾燥を防いでいる



シロダモ

りんが
鱗芽

花や葉の芽が鱗状に覆われている



葉痕

アカメガシワ

らが
裸芽

よく見ると葉の形をしている

表情豊かな冬芽たち

冬芽や葉痕は植物によって形状が異なり、いろんな顔や形に見えてきます。皆さんにはどのようにみえますか？

にっこりマーク😊



ゴンズイ



ヤマウルシ

ハート型♥

バンザーイ！



オオカメノキ



コブシ

もこもこ帽子^{ぼうし}